

卒業（松口月城）
短歌（竹内蕉龍）

短歌 業卒えて今世の中に巣立ち行く

君が行手に永久の幸あれ

体を錬り知を磨き聊か徳を養う

誰か堪えん母校別離の情

師恩高大以て何を報いん

竜門に飛躍して正を踏んで行かん

錬体磨知聊養徳 誰堪母校別離情
師恩高大以何報 飛躍竜門踏正行

解説 所定の学業課程を学び終えること。また、学び終えて学校を去ることを述べた詩。

語釈 ※錬Ⅱ心身や技をきたえ上げる。※磨Ⅱ学問や技芸を向上させようと励む。※徳Ⅱつまり真直な心、わが身に獲得した者の意味がある。※別離Ⅱ別れること。※師恩Ⅱ先生から受けた恩。※高大Ⅱぬきんでてすぐれていること。

※竜門Ⅱ立身出世することのたとえ。※飛躍Ⅱ活躍すること。

通釈 体を鍛え知を磨いてまっすぐな心が養われた母校を去る事は堪えられない。恩師から教えられた恩は何を持って報ゆることが出来るのか。卒業して社会に貢献すること、そして、正しい道を歩んで行く事だと思う。